

第4章 調査票（単純集計結果）

I. 男女平等の意識について

問1 あなたは、これらの言葉を御存知ですか。アからシのそれぞれの言葉について、該当するものを一つ選んで番号を○で囲んでください。

(N=2,000)

言葉	選択肢			
	よく知っている	知っている	言葉くらいは聞いたことがある	知らない
ア 男女共同参画社会	7.4%	29.0%	44.5%	19.2%
イ 女性活躍推進法	3.8%	17.9%	41.0%	37.4%
ウ 愛媛県男女共同参画推進条例	2.4%	8.9%	26.4%	62.4%
エ 愛媛県男女共同参画推進委員制度・苦情処理機関	1.8%	5.5%	16.2%	76.6%
オ 愛媛県男女共同参画センター	3.7%	12.5%	23.6%	60.3%
カ 配偶者暴力相談支援センター	2.6%	8.5%	25.2%	63.8%
キ えひめ性暴力被害者支援センター（ひめここ）	1.8%	7.1%	22.2%	69.0%
ク ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）	9.2%	22.7%	23.5%	44.7%
ケ ドメスティック・バイオレンス(DV)	15.8%	41.9%	24.1%	18.3%
コ デートDV(交際相手からのDV)	10.1%	28.4%	25.4%	36.2%
サ ジェンダー平等	10.8%	36.2%	30.7%	22.4%
シ 「ひめボス宣言事業所」認証制度	3.0%	9.5%	18.5%	69.1%

問2 あなたは、次の各分野で男女の地位は平等になっていると思いますか。アからキのそれぞれの分野について、該当するものを一つ選んで番号を○で囲んでください。

(N=2,000)

分野	選択肢					
	男性の方が非常に優遇されている	どちらかといえば男性の方が優遇されている	平等になっている	どちらかといえば女性の方が優遇されている	女性の方が非常に優遇されている	わからない
ア 家庭の中で	6.4%	34.8%	38.6%	7.8%	2.2%	10.5%
イ 職場の中で	10.7%	40.6%	27.8%	5.3%	2.1%	13.7%
ウ 地域社会の中で(町内会、自治会など)	10.1%	42.6%	27.0%	3.3%	0.9%	16.2%
エ 社会通念や慣習やしきたりなど	13.8%	53.5%	17.4%	2.8%	0.8%	11.9%
オ 法律や制度のうえで	9.0%	37.1%	36.8%	4.0%	1.3%	11.9%
カ 政治の分野で	25.1%	45.8%	16.5%	1.8%	1.0%	10.0%
キ 学校教育の分野で	5.6%	27.0%	49.1%	2.7%	0.6%	15.1%

問3 新聞、ラジオ、テレビやインターネット、SNS等のメディアにおける性別役割分担や性、暴力の表現について、あなたはどのようにお考えですか。あなたのお考えに近いものをすべて選んで、番号を○で囲んでください。

(1)新聞、ラジオ、テレビ、雑誌媒体について

(N=2,000)

	項目	回答比率
1	男女の性別役割分担(「男は仕事、女は家庭」など)を固定的に発信している	9.5%
2	女性のイメージや男性のイメージについて偏った表現をしている	16.9%
3	女性の性的側面を過度に強調するなど、行き過ぎた表現が目立つ	15.3%
4	社会全体の性に関する道德観・倫理観が損なわれている	13.2%
5	ヌード写真など、「性」を商品化した内容が扱われることで、女性の人権侵害等につながる恐れがある	17.3%
6	性的な表現を望まない人や子どもの目に触れないような配慮が足りない	18.2%
7	「女子アナ」「女医」といった女性にだけ用いられる表現を使用している	34.8%
8	外見や若さのみで評価するなどルッキズム(外見を重視する価値観)を助長している	25.0%
9	その他	0.6%
10	特に問題はない	19.1%
11	わからない	21.3%

(2)インターネット、Facebook・Instagram・LINE等のSNS、YouTube等について

(N=2,000)

	項目	回答比率
1	男女の性別役割分担(「男は仕事、女は家庭」など)を固定的に発信している	7.2%
2	女性のイメージや男性のイメージについて偏った表現をしている	16.6%
3	女性の性的側面を過度に強調するなど、行き過ぎた表現が目立つ	19.2%
4	社会全体の性に関する道德観・倫理観が損なわれている	16.9%
5	ヌード写真など、「性」を商品化した内容が扱われることで、女性の人権侵害等につながる恐れがある	21.9%
6	性的な表現を望まない人や子どもの目に触れないような配慮が足りない	24.6%
7	「女子アナ」「女医」といった女性にだけ用いられる表現を使用している	18.4%
8	外見や若さのみで評価するなどルッキズム(外見を重視する価値観)を助長している	21.4%
9	その他	0.5%
10	特に問題はない	17.4%
11	わからない	29.8%

II. 男女の人権について

※問4へは、現在、夫や妻（事実婚や単身赴任など別居中を含む）、生活の本拠を共にする交際相手のいらっしゃる方がお答えください。いらっしゃらない方は、問5へお進みください。

問4 あなたはこれまでに、あなたの夫や妻（事実婚や単身赴任など別居中を含む）、生活の本拠を共にする交際相手から、次のような行為を受けたり、されたことがありますか。次のアからエのそれぞれについて、該当するものを一つ選んで番号を○で囲んでください。

(N=2,000)

区分	選択肢	何度もあった	1、2度あった	まったくない	無回答
ア 身体的暴行 (例:なぐったり、けったり、物を投げつけたり、突き飛ばしたりするなどの身体に対する暴行)		3.1%	9.2%	74.6%	13.2%
イ 心理的攻撃 (例:人格を否定するような暴言、交友関係や行先、電話メールなどを細かく監視したり、長時間無視するなどの精神的な嫌がらせ、あるいは自分もしくは自分の家族に危害が加えられるのではないかと恐怖を感じるような脅迫)		7.1%	11.0%	69.2%	12.9%
ウ 経済的圧迫 (例:給料や貯金を勝手に使われる、生活費を渡さない、デート代や生活費を無理やり払わされるなど)		4.1%	6.3%	76.6%	13.0%
エ 性的強要 (例:嫌がっているのに性的な行為を強要される、見たくないポルノ画像を見せられる、避妊に協力しないなど)		3.0%	6.6%	77.3%	13.2%

問5 女性に対する暴力をなくすためにはどうしたらよいと思いますか。あなたのお考えに近いものを三つまで選んで番号を○で囲んでください。

(N=2,000)

	項目	回答比率
1	法律・制度の制定や見直しを行う	33.8%
2	犯罪の取締りを強化する	30.2%
3	捜査や裁判での担当者に女性を増やし、被害女性が届けやすいようにする	24.3%
4	被害女性を支援し、暴力に反対する市民運動を盛り上げる	6.3%
5	被害女性のための相談所や保護施設を整備する	28.7%
6	家庭における男女平等や性についての教育を充実させる	18.7%
7	学校における男女平等や性についての教育を充実させる	29.5%
8	新聞、ラジオ、テレビやインターネット等のメディアが倫理規定を強化する	11.4%
9	過激な内容のDVD、ゲームソフト、インターネット映像等の販売、貸出や配信を制限する	10.4%
10	ドメスティック・バイオレンス(DV)被害者に対する支援体制を強化する	22.8%
11	その他	1.4%
12	特に対策の必要はない	4.5%
13	わからない	12.1%

II-I 困難な問題を抱える女性への支援について

問6 あなたはこれまでに、あなた自身、もしくは身近な女性で、女性であることを理由として以下のような困難な問題を経験したり、見聞きしたりしたことがありますか。当てはまるものすべてに○をつけてください。

(N=2,000)

	項目	回答比率
1	配偶者・パートナー・恋人から、「身体的暴力、心理的攻撃、経済的圧迫、性的強要」を受けたことがある	14.7%
2	配偶者・パートナー・恋人以外から、「身体的暴行、心理的攻撃、経済的圧迫、性的強要」を受けたことがある	8.4%
3	性的な被害や問題を抱えたことがある(セクシャルハラスメント、性被害、予期せぬ妊娠など)	10.9%
4	経済的な困りごとを抱えたことがある(失業、転職、家計の急変など)	15.8%
5	健康に関わる不安や問題を抱えたことがある(病気、ケガ、精神的な問題など)	15.5%
6	家庭に係る問題を抱えたことがある(配偶者や家族等との不仲、家族の問題行動など)	17.0%
7	職場や学校、地域での人間関係等に係る問題を抱えたことがある(いじめ、ハラスメント、孤立、トラブルなど)	18.4%
8	住まいや居場所に係る問題を抱えたことがある(病気や障がい等を理由に住まいが借りられない、事情があり住まいを転々としているなど)	3.1%
9	障がいがあることから、更に困難な問題を抱えたことがある	2.7%
10	外国人やルーツが外国であることから、更に困難な問題を抱えたことがある	1.4%
11	その他	0.3%
12	どれも該当しない	56.0%

※(問6のうち、あなた自身の経験として一つでも該当するとお答えになった方にお聞きします。※あなたが見聞きした問題の場合には、回答不要です。)

問7 あなたは、これまでに、問6のような問題について、だれかに打ち明けたり、相談したりしましたか。当てはまるものすべてに○をつけてください。

(N=881)

	項目	回答比率
1	警察に相談した	5.7%
2	人権擁護委員に相談した(法務局、地方法務局の人権相談窓口を含む)	2.3%
3	配偶者暴力相談支援センター(県福祉総合支援センター、県男女共同参画センター、新居浜市配偶者暴力相談支援センター)に相談した	3.0%
4	えひめ性暴力被害者相談支援センター(ひめここ)に相談した	3.5%
5	行政の相談窓口(県・市町の担当課、福祉事務所、保健所(保健センター)等)に相談した	6.9%
6	保育所、幼稚園、学校等に相談した	3.1%
7	その他の公的な機関に相談した	3.6%
8	民間の機関(弁護士会、法テラス、NPOなど)に相談した	4.1%
9	医師に相談した	7.4%
10	家族に相談した	22.1%
11	友人・知人に相談した	26.8%
12	どこ(だれ)にも相談しなかった	32.0%
13	その他	1.1%
	無回答	15.1%

※(問7のうち、あなた自身の経験として「12 どこ(だれ)にも相談しなかった」とお答えになった方にお聞きします。)

問8 相談しなかった理由について、当てはまるものすべてに○をつけてください。

※あなたが見聞きした問題の場合には、回答不要です。

(N=282)

	項目	回答比率
1	相談するほどのことでないと思ったから	33.0%
2	相談する勇気が出なかったから	16.0%
3	相談した後の影響が不安だったから(周りに知られる、被害がより大きくなるなど)	16.0%
4	相談しても思うような対応が期待できないと思ったから	29.1%
5	相談するよりも早く忘れたいと思ったから	11.3%
6	自分にも悪いところがあると思っていたから	7.4%
7	相談先を知らなかったから	16.3%
8	以前相談したが、その際に嫌な思いをしたから	5.3%
9	その他	3.9%
	無回答	0.4%

問9 問6のような困難な問題を抱えている女性の相談支援体制について、整備されていると思いますか。次の中から一つ選んで番号を○で囲んでください。

(N=2,000)

	項目	回答比率
1	思う	8.6%
2	思わない	44.7%
3	わからない	46.8%

問10 問6のような困難な問題を解決するために、どのような支援や環境があればよいと思いますか。当てはまるもの三つまで○をつけてください。

※すでに困難な問題が解決している方は、解決する前の状況としてお答えください。

(N=2,000)

	項目	回答比率
1	自分の困りごとをなんでも相談でき、具体的な支援につながるることができる窓口(相談窓口等と一緒にしてくれるなど)	40.5%
2	休日・夜間を含む 24 時間対応可能な相談窓口	30.4%
3	メールやSNSなどによる相談窓口	27.9%
4	利用できる支援制度の情報提供	29.6%
5	同じような悩みをもつ人と出会える場所	13.9%
6	相談・支援を受けている間の寄り添いや見守り	12.7%
7	自分の困りごとに気づいて声をかけてくれる人や支援機関(団体等による夜間見回り、街頭での声掛けなど含む)	9.4%
8	生活のための経済的援助	28.1%
9	就労の支援(資格取得等の働くための支援や就職先を探すサポート)	11.3%
10	カウンセリング等の心理学的支援	18.4%
11	弁護士等による法的支援	20.3%
12	その他	2.8%

Ⅲ 防災について

問11 あなたは、お住まいの地域の自治会、町内会などが防災活動（防災訓練や避難所の運営等）を行っていることをご存じですか。該当するものを一つ選んで番号を○で囲んでください。

(N=2,000)

	項目	回答比率
1	知っている	49.3%
2	知らない	50.7%

※問11のうち、「1 知っている」とお答えになった方は、問12へお進みください。それ以外の方は問13へお進みください。

問12 自治会、町内会など地域の防災活動（防災訓練や避難所の運営等）における男女の活動について、あなたはどのようにお考えですか。あなたのお考えに近いものを次の中から二つまで選んで番号を○で囲んでください。

(N=986)

	項目	回答比率
1	男性の参加が少ない	9.1%
2	女性の参加が少ない	22.5%
3	男性の意見が反映される場が少ない	1.9%
4	女性の意見が反映される場が少ない	11.8%
5	男女の仕事の分担が偏っている	13.8%
6	現状で特に問題はない	26.9%
7	その他	1.2%
8	わからない	30.3%

Ⅳ. 教育について

問13 教育について、次のような考え方をどう思われますか。アからオのそれぞれの項目について、該当するものをそれぞれ一つ選んで番号を○で囲んでください。

(N=2,000)

項目	選択肢	そう思う	どちらかといえば そう思う	どちらとも いえない	どちらかといえば そう 思わない	そう 思わない
	ア 男の子は男の子らしく、女の子は女の子らしくしつけるのがよい		4.8%	19.0%	42.7%	14.5%
イ 学校での男女別の制服や並び方、色分け、呼び分けなどの習慣をなくした方がよい		10.2%	22.4%	43.9%	13.5%	10.2%
ウ 女性は文系、男性は理系の分野が向いている		1.0%	5.5%	31.9%	18.1%	43.6%
エ 知的な能力は、性別による差よりも個人差の方が大きい		35.5%	24.2%	26.9%	5.2%	8.3%

V 家庭生活等について

問14 結婚、家庭、離婚について、あなたのお考えをお伺いします。アからオまでの各項目ごとに「そう思う」「どちらともいえない」「そう思わない」など五つの選択肢の中からそれぞれ一つ選んで番号を○で囲んでください。

(N=2,000)

項目	選択肢				
	そう思う	どちらかといえば そう思う	どちらとも いえない	どちらか といえば そう思わ ない	そう思わ ない
ア 結婚は個人の自由であるから、人は結婚してもしなくてもどちらでもよい	38.2%	28.1%	23.2%	7.3%	3.3%
イ 夫婦が別姓を名乗るのを認めた方がよい	20.3%	24.0%	39.2%	8.5%	8.0%
ウ 「夫は外で働き、妻は家庭を守るべき」という考え方に賛成である	2.4%	7.6%	32.2%	23.1%	34.8%
エ 仕事を持っている場合でも、家事・育児は女性がする方がよい	2.1%	8.0%	32.5%	21.7%	35.8%
オ 一般に今の社会では離婚すると女性の方が不利である	20.5%	31.9%	31.7%	8.2%	7.8%
カ 結婚したら、子どもを持つべきだ	4.8%	15.8%	44.6%	11.0%	23.9%

問15 家事・育児・介護の家庭内での分担や保育や介護サービスなどの積極的な社会支援について、あなたはどのようにお考えでしょうか。(1)、(2)について、それぞれ一つずつ選んで番号を○で囲んでください。

(1)家庭内の家事・育児・介護の分担について

(N=2,000)

	項目	回答比率
1	主として女性が受け持つ方がよい	6.7%
2	男女が共同して分担する方がよい	64.7%
3	主として男性が受け持つ方がよい	1.1%
4	性別ではなく、経済力(給与収入等)で分担を決める方がよい(収入の少ない方が、多く分担するなど)	11.7%
5	その他	2.3%
6	わからない	13.6%

(2)育児・介護に対する社会支援について

(N=2,000)

	項目	回答比率
1	基本的に家族が行うべきである	24.5%
2	女性の活躍を促進する観点からも社会による保育や介護サービスなどの積極的な支援が必要である	56.6%
3	その他	1.8%
4	わからない	17.3%

※問 16、17 は、現在、夫や妻（事実婚や単身赴任など別居中を含む）などのご家族がいらっしゃる方がお答えください。いらっしゃらない方は、問 18 へお進みください。

問16 実際のあなたのご家族の生活として一番近い姿はどれですか。次の中からあてはまるものを一つ選んで番号を○で囲んでください。

(N=1,554)

	項目	回答比率
1	男性は仕事、女性は家事、育児、介護(以下家事等と表現する)を担当している	21.4%
2	男性は仕事、女性は家事等に差し支えない範囲で仕事をしている	17.0%
3	男女ともに仕事をし、家事等は主に女性が担当している	18.0%
4	男女ともに仕事をし、家事等もお互いに協力して行っている	24.9%
5	男女ともに仕事をし、家事等は主に男性が担当している	2.0%
6	女性は仕事、男性は家事等を担当している	2.2%
7	女性は仕事、男性は家事等に差し支えない範囲で仕事をしている	1.4%
8	男女ともに仕事をし、家事等は他の家族や民間のサービスなどに任せている	4.2%
9	その他	9.0%

問17 問 16 でお答えいただいた実際のご家族の生活の姿について、あなたはどのように感じていますか。次の中から一つ選んで番号を○で囲んでください。

(N=1,554)

	項目	回答比率
1	十分満足している	21.3%
2	ある程度満足している	56.5%
3	満足していない	18.9%
	無回答	3.3%

問18 今後、男性が女性とともに家事、子育てや教育、介護、地域活動に積極的に参加していくためには、どのようなことが必要だと思えますか。次の中から三つまで選んで番号を○で囲んでください。

(N=2,000)

	項目	回答比率
1	男性が家事・育児などに参加することに対する男性自身の抵抗感をなくすこと	36.2%
2	男性が家事・育児などに参加することに対する女性の抵抗感をなくすこと	10.7%
3	男女ともに、同程度の経済力(給与収入等)を有すること	24.8%
4	夫婦や家族間でのコミュニケーションをよくはかること	46.4%
5	年配者やまわりの人が、夫婦の役割分担などについての当事者の考え方を尊重すること	18.0%
6	社会の中で、男性による家事・育児などについてもその評価を高めること	19.8%
7	男性による家事・育児などについて、職場における上司や周囲の理解を進めること	28.1%
8	労働時間短縮や休暇制度、テレワークなどのICTを利用した多様な働き方を普及することで、仕事以外の時間をより多く持てるようにすること	18.2%
9	男性の家事・育児などについて、啓発や情報提供、相談窓口の設置、技能の研修を行うこと	6.4%
10	男性が家事・育児などを行うための仲間(ネットワーク)作りをすすめること	4.4%
11	その他	1.3%
12	わからない	14.4%

VI 女性活躍について

問19 あなたは、次にあげるような役職や公職に女性が「もっとつた方がよい」と思いますか。アから力の項目ごとに、次の中からそれぞれ一つ選んで番号を○で囲んでください。

(N=2,000)

項目	選択肢	そう思う	そう思わない	わからない
ア 町内会長、自治会長		38.6%	18.3%	43.2%
イ PTA会長		39.8%	17.9%	42.3%
ウ 職場の管理職		55.2%	13.6%	31.2%
エ 県や市町村の審議会委員		55.5%	12.6%	31.9%
エ 県や市町村の審議会委員		57.7%	12.1%	30.3%
カ 国、県、市町村の議会議員		59.4%	11.3%	29.4%

問20 政治・経済・地域・家庭などの各分野で、女性のリーダーを増やすときに障がいになるものは何だと思えますか。次の中からあなたのお考えに近いものを二つまで選んで番号を○で囲んでください。

(N=2,000)

	項目	回答比率
1	上司・同僚・部下となる男性や顧客が女性リーダーを希望しないこと	26.1%
2	現時点では、必要な知識や経験などを持つ女性が少ないこと	14.9%
3	女性自身がリーダーになることを希望しないこと	20.5%
4	長時間労働の改善が十分ではないこと	19.9%
5	企業などにおいては、管理職になると広域異動が増えること	10.7%
6	保育・介護・家事などにおける夫などの家族の支援が十分ではないこと	33.7%
7	保育・介護の支援などの公的サービスが十分ではないこと	18.6%
8	その他	1.3%
9	わからない	18.3%

問21 「意思決定の場等における男女間の格差を改善するため、有能な女性を積極的に役職等に登用するなど、特別な措置を講じる必要がある。」という考え方(ポジティブ・アクション)がありますが、あなたはこのことについてどうお考えでしょうか。次の中からあなたのお考えに最も近いもの一つ選んで番号を○で囲んでください。

(N=2,000)

	項目	回答比率
1	そう思う	18.0%
2	どちらかといえばそう思う	36.9%
3	どちらともいえない	34.2%
4	どちらかといえばそう思わない	4.7%
5	そう思わない	6.3%

問22 本県では、女性が職業を持ち、働き続けていくために必要な条件が整っていると思いますか。次の中から一つ選んで番号を○で囲んでください

(N=2,000)

	項目	回答比率
1	十分整っている	1.8%
2	ある程度整っている	28.0%
3	あまり整っていない	55.5%
4	整っていない	14.8%

※問22のうち、「2 ある程度整っている」「3 あまり整っていない」「4 整っていない」とお答えになった方は、問23へお進みください。それ以外の方は問24へお進みください。

問23 女性が職業を持ち、働き続けていくために、家庭・社会・職場において現在不足しているものは何だと思えますか。次の中から三つまで選んで番号を○で囲んでください。

(N=1,964)

	項目	回答比率
1	保育所や学童クラブなど、子どもを預けられる環境の整備	38.2%
2	地域社会全体で子育てを応援するという風土や雰囲気	15.4%
3	介護支援サービスの充実	18.2%
4	家事・育児支援サービスの充実	19.7%
5	男性の家事参加への理解・意識改革	23.7%
6	女性が働き続けることへの夫や家族など身内の理解・意識改革	17.2%
7	女性が働き続けることへの上司や同僚など職場の理解・意識改革	17.4%
8	男女が平等に収入を得られる賃金体系の確立(男女間賃金格差の解消)	23.0%
9	男女双方の長時間労働の改善を含めた働き方の充実	14.1%
10	職場における育児・介護との両立支援制度の充実	19.5%
11	短時間勤務制度や在宅勤務制度などの導入	10.7%
12	育児や介護による仕事への制約を理由とした昇進などへの不利益な取扱いの禁止	10.0%
13	その他	1.5%
14	わからない	13.1%

問24 今後、どの分野での女性活躍が重要だと感じますか。当てはまるものすべてに○をつけてください。
(N=2,000)

	項目	回答比率
1	政治	65.6%
2	行政	61.5%
3	雇用(民間企業)	58.8%
4	農林水産業	18.7%
5	教育・研究	44.9%
6	地域(自治会やPTA等)	34.2%
7	防災・復興	25.2%
8	その他	3.0%

問25 県では、女性活躍及び仕事と家庭生活の両立支援に取り組む企業・事業所を「ひめボス宣言事業所」として認証し、県内に、性別を問わず誰もがいきいきと活躍できる魅力的な職場が増えるよう、企業等の取組みを後押ししています。

あなたは、女性活躍の推進や仕事と家庭生活の両立支援などに取り組む企業等について、どのようなイメージをお持ちですか。次の中から三つまで選んで番号を○で囲んでください。

(N=2,000)

	項目	回答比率
1	好印象を持っている	29.8%
2	自分も働いてみたいと思う	10.8%
3	商品を購入したり、サービスを受けたりしたいと思う	9.9%
4	男女問わず優秀な人材が活躍できる会社であると思う	32.1%
5	仕事と家庭が両立しやすい会社であると思う	29.5%
6	社会全体に活力や良い影響を与えていると思う	20.6%
7	男性のポストが減るなど、男性が活躍しづらくなると思う	3.3%
8	あまり良い印象はない	3.9%
9	特に何も思わない	14.0%
10	わからない	20.9%
11	その他	0.5%

VII 男女共同参画社会について

問26 男女共同参画社会を形成していくために、今後行政はどのようなことに力を入れていくべきだと思いますか。次の中からあなたのお考えに近いものを三つまで選んで番号を○で囲んでください。

(N=2,000)

	項目	回答比率
1	男女平等を目指した法律・制度の制定や見直しを行う	22.7%
2	女性を政策決定の場に積極的に登用する	21.1%
3	民間企業・団体などの管理職に女性の登用が進むよう支援する	18.8%
4	地域の組織や団体の女性リーダーの育成を支援する	14.6%
5	女性や男性の生き方や悩みに関する相談の場を提供する	11.2%
6	従来、女性が少なかった分野(研究職、防災関係など)への女性の進出を支援する	15.4%
7	保育の施設・サービスや、高齢者や病人の施設や介護サービスを充実する	24.1%
8	学校教育や社会教育・生涯学習の場で男女の平等と相互の理解や協力についての学習を充実する	11.3%
9	労働時間の短縮や在宅勤務の普及など男女ともに働き方の見直しを進める	17.8%
10	子育てや介護中であっても仕事が続けられるよう支援する	27.1%
11	子育てや介護中などでいったん仕事を辞めた人の再就職を支援する	13.4%
12	男女の平等と相互の理解や協力についてPRする	4.8%
13	女性に対する暴力の根絶や、困難な問題を抱える女性を支援するための取組を進める	4.5%
14	その他	1.3%
15	わからない	18.9%

問27 男女共同参画社会の実現のため、県はどのような事業を実施すればよいと思いますか。1～4のテーマごとに、御自由にお書きください。

	項目
1	ジェンダーギャップ解消について
2	共働き・共育て社会の実現について
3	困難な問題を抱える女性への支援について
4	その他

最後に、御回答を統計的に分析するため、あなた自身のことについてお尋ねします。

F 1 あなたの性別を教えてください。(N=2,000)

	項目	回答比率
1	男	47.0%
2	女	52.0%
3	回答しない	1.0%

F 2 あなたの年齢を教えてください。(N=2,000)

	項目	回答比率
1	18～19歳	0.3%
2	20～29歳	7.1%
3	30～39歳	14.6%
4	40～49歳	22.0%
5	50～59歳	22.2%
6	60～69歳	19.3%
7	70～79歳	13.5%
8	80歳以上	1.2%

F 3 あなたの職業は何ですか。(N=2,000)

	項目	回答比率
1	農林漁業	2.0%
2	自営業	6.1%
3	勤め人(常勤、フルタイム、会社役員を含む)	43.5%
4	勤め人(パート、アルバイト、嘱託他)	18.4%
5	主夫・主婦	11.6%
6	その他(学生等)	1.8%
7	無職	16.7%

F 4 あなたは結婚していらっしゃいますか。(N=2,000)

	項目	回答比率
1	結婚している	62.5%
2	結婚していない(パートナーと暮らしている)	4.9%
3	離別	9.0%
4	死別	2.5%
5	未婚	21.2%

F 5 あなたに、お子さんはいらっしゃいますか。(N=2,000)

	項目	回答比率
1	いる	63.3%
2	いない	36.8%

F 6 現在、あなたのご家庭は、次のどれにあたりますか。(N=2,000)

	項目	回答比率
1	単身世帯(1人)	18.4%
2	夫婦世帯	34.2%
3	2世代世帯(親と子など)	42.2%
4	3世代世帯(親と子と孫など)	4.3%
5	その他	1.1%